



2学期のスタートにあたって ～体験と関わりの大切さ～

教育支援室 室長 甲野 正人

連日、熱中症警戒アラートを耳にした厳しい夏を越え、いよいよ実りの秋、2学期がスタートしました。多くの活動を通して心身が大きく成長するこの2学期ですが、時には壁にぶつかり、順風満帆とはいかないこともあることでしょう。そんな時、私たち大人はどう関わればよいのでしょうか。

例えば、教育支援室で毎年開催している親子でのクレイセラピー体験。今はネットや動画で「綺麗な作品の作り方」を簡単に見ることができます。しかし、画面越しに手順を知ることと、実際にひんやりとした土に触れ、手が泥だらけになる感覚を味わうことは全く違います。思いどおりの形にならずに崩れてしまった時、動画は悔しさを和らげたり、励ましたりしてはくれません。「次はここを少し厚くしてみようか」「面白い形ができたね」と、隣で一緒に手を動かし、見守る大人がいてこそ、子どもは失敗を乗り越えて、次の一步を踏み出せるのです。

人間は、リアルな体験と、それを支える人との関わりの中でこそ成長するのではないのでしょうか。ネットや生成AIですぐに答えが見つかる時代ですが、子どもが壁を乗り越えるには、信じてくれる大人の存在が不可欠です。「どうすればできる？」と問いかけ、共に考える。そして、少しでもできたこと（小さな成長）を心から褒める。その温かな関わりが、自ら答えを見つける力を引き出し、次へ向かう自信と、新たな挑戦への意欲を育むのではないのでしょうか。

豊かな体験と温かい関わりを大切に、実り多き2学期となるよう、皆様と共に子どもたちの成長をサポートしてまいります。今学期も、どうぞよろしくお願いいたします。

地域・家庭・学校が一体となって創る 八幡浜の子どもたちの未来
～「八幡浜市こども未来共創会議」の取組と実践～

近年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、健全育成に関わる課題は複雑化・多様化しています。八幡浜市では、いじめ問題の解決を根底に据えつつ、地域・家庭・学校・行政が一体となり、広範な課題に対応するため、昨年度から「八幡浜市こども未来共創会議」を立ち上げ、具体的な取組を進めています。第1回会議(8/27)の内容と、重点的なアクションを一部紹介します。

<活動計画・基盤・重点アクションから>

本会議では、各学校の「学校運営協議会」と緊密に連携し、地域課題の解決に向けた協議を深めるとともに、「実務チーム会議」が現場の課題に即した実効性ある取組を提案・推進していくことを確認しました。今年度も年2回の全体会議を軸に、活動を展開します。

○『はまっこ Good & New!』の推進

その日にあった「嬉しかったこと」や「新しい発見」を共有し、互いに拍手で認め合う活動です。自己肯定感を高め、家庭や学校での温かい対話のきっかけをつくります。

※ 投稿はこちらから！ ➡



○『あいさつ・声かけ運動』の推進

大人が子どもへ笑顔で声をかける活動です。見守られている実感は子どもの自己肯定感を高めます。9月の強調旬間(9月1日～9月10日)を中心に地域全体で展開します。

○『デジタル機器との適切な付き合い方』の提案

現在策定を進めている指針案では、就学前からの関わりについても盛り込んでおります。デジタル機器との付き合い方はご家庭に責任があることを前提としつつ、その主体的な実践を支えていくためのものです。

本指針案は、令和9年2月に行われる「第2回こども未来共創会議」において正式決定し、全市的な啓発・支援を進めていく予定です。

詳細な内容につきましては、右のQRコードからご覧ください。



発達支援に関する講演会のご案内

◇ 日 時 令和8年11月21日(土) 14:00～16:00

◇ 会 場 八幡浜市役所 保内庁舎 3階 大会議室

◇ 演 題 「発達に凸凹のある子どもの『こころ』と『困り感』への寄り添い方」

 ◇ 講 師 三木 崇弘 氏 児童精神科医
 はりま こどものこころ診療所 院長
 (アニメ『リエゾン』の医療監修者)

◇ 申込み 後日配布する、講演会案内チラシの申込書を所属の保育所、幼稚園、学校に提出してください。また、教育支援室に電話、ファックス、メール、QRコードで、直接申し込んでいただいてもかまいません。



【プロフィール】

 み き たか ひろ
 三 木 崇 弘 氏

 はりま こどものこころ診療所 院長
 児童精神科医
 (アニメ『リエゾン』の医療監修者)


愛媛大学医学部卒。医学博士(東京医科歯科大学大学院)、経営管理修士(早稲田大学大学院)。2013年より国立成育医療研究センターで児童精神科医として勤務。2019年よりフリーランス児童精神科医として、クリニック以外にも学校や児童相談所、児童養護施設や保健所などで勤務し、医療・教育・福祉・行政の現場で働く。2022年より地元兵庫県姫路市にUターンし、2025年4月「はりま こどものこころ診療所」を開業。漫画『リエゾン—こどものこころ診療所—』の医療監修、さまざまな社会活動を通して、社会への問いかけや支援の在り方について提言をされています。

夏季休業中に実施した研修会を紹介します

【学校生活支援員研修会】 7月21(火)・22日(水)

本年度は、「児童生徒の行動の『理由』に寄り添う支援」と題し、行動分析の視点を取り入れた、困りごとへの関わり方について、グループ演習を中心に研修しました。教育支援室の吉田京子スクールライフアドバイザーから、行動分析の基礎的な内容を研修した後、グループ演習の視点について説明を聞き演習課題を共有しました。5～6名のグループで、与えられた事例について、その行動に至った背景を考えた後、行動分析の手法を使って「教授」「援助」「援護」について協議しました。この手法を使うことで、支援のあり方について考える良い機会となりました。



【特別支援教育コーディネーター等研修会】8月5日(水)

障がい者就業・生活支援センター ネットワーク ジョイより 高石徳香氏、井上 ゆか 氏をお招きし「将来の『自立』と『今の支援』をつなぐ ～BWAP2(就労アセスメントシート)の視点を取り入れた実践のヒント～」と題し講話をいただきました。子どもたちが、将来「自立」するために、今、「何ができて、何ができないのか?」「何だったらできそうか?」「どういったサポートがあればいいのか?」等について、アセスメントが必要であること。その手法として、ライフスキルを視覚化することができる「BWAP2」が有効であることについて学びました。グループ別協議では、切れ目のない支援を進めるための取組について、校種を超えた活発な情報交換ができました。



ソーシャル・スキル・トレーニング (SST)

第1回「ステップアップスポーツ」5月30日(土)



SSTでは、発達に支援の必要な子どもたちが、苦手を克服し、やる気を引き出す活動を通して、必要なコミュニケーション能力を身に付けていくことを目指しています。今年は、レクリエーションスポーツの活動を通じて、コミュニケーション能力・社会性、身体機能・自己意識、知的・適応的なスキルを継続的に学ぶことを目的とし、ボッチャやフライングディスクなどのスポーツを年間通じて実施し、技能を少しずつ高めていくことにしました。

5月30日(土)、4名の児童とその保護者が参加し、準備体操後、ボッチャに挑戦しました。3点～1点のスペースがある的をめがけて球を5回投げ込み、止まった所のポイントの合計を競います。また、ホワイトボードに得点票があり、みんなで得点を計算しました。フライングディスクは、ディスクを投げ金属の輪のゴールを通過した回数を競います。どちらの競技も今回初めて行うものであり、なかなか思うようにいきませんでした。何度か練習している間に少しずつコツがつかめてきたようでした。今後、回を重ねるごとにスキルアップしていける感じでした。参加者どうして工夫しながら、楽しく取り組めたSSTでした。参加者の皆さんのすてきな笑顔が輝いていました。第2回は、9月26日(土)に実施予定です。

SST夏休み親子イベント



今年度も、陶芸家の毛利希先生、井上祐子先生を講師にお迎えし、クレイセラピーを実施しました。親子4組13名が参加し、「かきだし絵皿」づくりに挑戦しました。「かきだし絵皿」とは、粘土を伸ばし作った皿の表面に色粘土を塗り、表面を乾燥させた後、へらなどで表面の色粘土を削って、好きな絵や模様などを皿に描いていく手法です。最初、粘土をかき出す力加減が難しいものはありませんでしたが、すぐに慣れて、皆、思い思いの絵や模様を描いて個性ある作品に仕上げることができました。参加した皆さんは、土とふれ合う活動を通し、親子のふれ合いも深まりました。また、気持ちも粘土のように少しだけ柔らかくなったのではないのでしょうか。親子で対話しながら充実した時間を過ごすことができました。作品の焼き上がりがとても楽しみです。



アートセラピー〔芸術療法〕8月17日(月)

色彩アトリエ「ま・しろ」(松前町)の白石弘美先生(アートセラピスト/公認心理師)を講師にお迎えし、アートセラピーを実施しました。アートセラピーは、創作活動すること自体に癒し効果があり、また、アートを通じたコミュニケーションの中で、心の内面に触れていく心理療法です。

今年は、「やってみよう! テクスチャーアート」のテーマで、作品作りに挑戦しました。テクスチャーアートとは、絵具と専用の盛り上げ材を混ぜてキャンパスに塗り、立体的な質感や風合いを表現する抽象画です。ベースとなる白色のアクリル絵の具に重曹を加えてよく混ぜ合わせます。そこに好みの色のアクリル絵の具を入れ様々な色の絵具を作っていきます。重曹を加えることで、絵具にボリュームができ、絵具を重ねたり盛り上げたりすることができます。キャンパスに絵画用ナイフを使って、色を重ねて絵や模様を描いていきました。楽しくて、あっという間に時間が過ぎてしまいました。ざらざらとした絵具の感触を楽しみながらの作品作りに、とても心が癒やされました。



増加傾向にある支援を要する子どもや、家庭・学校をサポートしていきます。

教育支援室(保内庁舎1階) 困ったことがあったら、いつでもご相談ください。

- | | |
|--|--|
| ☆ 電話相談・来室相談(八幡浜市教育委員会教育支援室)
☎ 0894-21-6864 月～金8:30～17:00 | ☆ 八幡浜 心の悩み110番(八幡浜市教育委員会教育支援室)
☎ 0120-805-415 月～金8:30～17:00 |
| ☆ 警察安全相談(八幡浜警察署)
☎ 0894-22-0110 24時間受付 | ☆ いじめ相談ダイヤル24(愛媛県教育委員会)
☎ 0120-0-78310 24時間受付 |
| ☆ 児童相談所全国共通ダイヤル(厚生労働省)
☎ 189(いちはやく) 児童虐待通報電話 24時間受付 | ☆ こどもの人権110番(法務局)
☎ 0120-007-110 月～金8:30～17:15 |
| ☆ こども電話「ひびき」(チャイルドライン・ハートコール・えひめ)
☎ 089-917-7797 5と0の付く日16:00～21:00 | ☆ 18歳までのチャイルドライン(チャイルドライン支援センター)
☎ 0120-99-7777 まいにち16:00～21:00 |
| ☆ やわらはま元気ノート(児童生徒のタブレット端末を利用したセルフチェックとSOSなんでも相談の実施) | |

